



Title	彙報・編輯後記
Author(s)	
Citation	懷徳. 1954, 25, p. 67-68
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90278
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙報 (懷德堂記念會)

○昭和二十八年 十月五日より十日までの六日間、本會及阪大文學部主催、大阪市大文學部、朝日新聞社後援で、阪大醫學部第二講堂に於て、毎日午後六時半から八時まで、第六回懷德堂講座(明治の回顧講座)開催、聽講者延八百人。

演題と講師

明治の精神と啄木	關西學院大學教授	高坂 正顯
明治初期の官僚	京大教授	坂田 吉雄
明治の女性	同志社大學教授	石田 一良
日本經濟の發展と外資	京大教授	堀江 保藏
明治醫學の一隅	阪大名譽教授	古武彌四郎
明治の漢詩壇	國立東京博物館長	神田喜一郎

○十月二十日「懷德」第二十四號發行

○十月二十四日 書庫内に於て午後一時半より記念祭執行、終つて大阪市立大學教授内藤乾吉氏の「日本古代の官制について」と題する記念講演があつた。

○同日 本會事務所に於て評議員會を開き理事改選の結果、小倉正恒、上野精一、木間瀬策三、今村荒男の四氏再選、岡橋林、桑田芳藏の二氏新選、十月三十日就任。

○同日 評議員會に引續き理事會を開き、本會の事務所を「大阪市東區北濱三丁目三〇番地」に移轉することを決議した。

○十一月二十四日 右移轉認可の申請書を文部省へ提出。
○十二月 本月以降會場の都合により定日講義(萬葉集講義)休講。

○昭和二十九年 五月二十四日より二十九日まで、本會及阪大文學部主催、大阪市大文學部、朝日新聞社後援の下に、阪大醫學部第一講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第七回懷德堂講座(古典講座)開催、聽講者延九百人。

演題と講師

周易	阪大教授	木村 英一
樂記	關學大教授	張 源祥
尙書	懷德堂講師	平岡 武夫
說文	京大助教授	石濱純太郎
萬葉集	關大教授	澤瀉 久孝
水經注	京大名譽教授	關大教授
	京大教授	森 鹿三

懷德堂事務連絡所 今回本堂の事務連絡所を
豐中市柴原 阪大文學部内

に設けましたから、本堂に御用向の節は、すべて同所宛に願ひします。

編輯後記

○巻頭に掲げた古武先生の「明治醫學の一隅」は、昨年十月九日の懷德堂講座に於ける御講演の要旨である。先生は言ふまでもなく當代我國醫學界の大先輩であつて、こゝに傳へられた明治醫學界の諸大家達の面影は、いづれも先生が直接の御交際を通じて語られた貴重なるものである。特に心ある讀者に提供して味讀を請ひ度いと思ふ。

○澤瀉先生の萬葉集は、懷德堂の古い聽講者には懐しいものである。今春五月二十八日の古典講座に、久し振りに演壇に立つて下さつて、來聽者は堂に溢れた。そして今またこの一篇をいたゞくことが出來たのは、深く喜びとするところである。

○張源祥先生も亦古い懷德堂の講師で、堂友にはおなじみの先生である。音樂美學者・音樂評論家・關西學院大學教授として聞えてゐることは言ふまでもない。ところでこの論文は、先生の表藝ではないが、眞面目な先生には中國の古典を愛好される一面があつて、今回この一篇を寄せられた。古典學の専門家でない人の意見として興味深い。

○清水阪大助教授の文は、竹林七賢の一人である嵇康の生涯を描かれた評傳である。重からず輕からず、長からず短からず、文に過ぎず野に陥らず、蓋し恰好の紹介であらう。

○黒江一郎氏は宮崎大學の教授で、我國先賢の學藝の表彰につとめて居られる篤實な學者である。著書に『安井息軒』があり、ま

た氏の苦心編纂に成つた息軒遺文集（附註釋）が印刷中であると聞いてゐる。こゝに載せた文は、李門公の文學についての新獲の史料を特に寄せられたものである。

○道友會員菅代節雄氏が熱心な郷土史研究家であることは、隠れもない事實である。今回快く編輯者の請ひを納れて、特に淀川三十石船くらわんか船についての蘊蓄の一端を書かれ、興味深い讀み物を提供して下さいたのはまことに有り難い。

○こゝに編輯者として、執筆して下さいたがたに對して、感謝と敬意とをささげる。（編輯者）